

第 2 回海上分科会の議事概要

第 2 回江田島市公共交通協議会（海上分科会）

日時：平成 21 年 12 月 21 日（月）午前 9 時 45 分～11 時 30 分

場所：江田島市役所 2 階会議室

内容：

■江田島の航路の現状について

- ・ 人口が減少し、市場は縮小している。江田島市で海上交通が必要ということであれば、航路の再編は必須である。現状の 6 社すべてが健全に生き残ることは難しいのではないかと。
- ・ 切串～宇品航路において上村汽船とファーストビーチが航路を統合した際には、事業者 2 社と利用者が win-win-win の関係を構築しながら対処したが、切串吹越栈橋付近の住民等には我慢頂いた。皆が少しずつ我慢することが必要である。
- ・ 三高航路については、バス路線のサービスが低く、港湾整備が遅れがちであるため、利用者にとって不便な状況にある。

■江田島市の航路のあり方について

- ・ 西能美航路の再編について、中町・高田の住民は不安を持たれると思うが、バスでの代替や運賃施策でカバーする必要がある。ただ、この航路の再編は、市内他の航路への影響も考えられる。全体の交通体系をよく考えた上で施策を打つべきである。
- ・ 西能美航路については、3つの栈橋があるが、これらを 1つの母体で運営することが望ましいように思う。
- ・ 航路をインフラとして維持していくためには、公設民営や上下分離の考え方が必要ではないか。航路事業者は船舶の維持・更新等で大きな負担を負っている。例えば、この部分を公が担い、事業者はその資源を用いて運航を担うことが考えられる。公が船を買い上げ、希望する事業者リースバックすれば良いのではないかと。
- ・ 民間に委ねる部分については、チェック機能が必要である。住民は完全に民間に委ねられることに不安があるように思う。
- ・ 夜間便についても、民間で出来ない部分は公で担うべきである。
- ・ 企業局の航路の状況（収支等）については、もう少し情報公開が必要である。
- ・ フェリーは高速船より不利な印象があるが、近い距離ではフェリーでも十分運営できると思う。

■事業や施策のアイデアについて

- ・ 子供が高校生くらいになると、船の定期券代と街での下宿代をはかりにかけ、広島市や呉市に出ていってしまう。自然減だけで需要が減少している訳ではない。通学割引については以前よりやってみたいと考えていた。
- ・ 市外からの交流人口が増えると、事業者の収益改善に寄与し、結果的に江田島市の住民

にもメリットとなる。各港で貸し出し、乗り捨てができるレンタサイクルを整備してはどうか。運営はお金がかからないよう、ボランティアやNPO等で何とかするのはないか。

- ・ 観光マップで季節の行事や見どころなどをPRすべき。農家体験や自然体験等、少しでも多くの人に来て頂けるよう、考える必要がある。
- ・ 広島市等で保育園等に入れず、待機している待機児童が出ていると聞いている。そのような児童を江田島市内の保育所で引き受けてはどうか。
- ・ 住宅公社で整備した住宅で売れ残った物件を買って頂いた場合、航路の運賃を無料にするなど、定住につながる施策が必要である。
- ・ 香港では、島に住み、船で街に通うことがステイタスになっている。電気自動車しか走らない島がある。江田島市は空間的に閉じているので、そうしたモデル地区に名乗りを上げ、実験するには最適なまちではないか。
- ・ プリンズホテルに泊まる人は、海の景色を見たくて泊まりに来る。江田島市の魅力をPRすれば、来る人もいるはずである。ホテル内に江田島市の情報が無いのが不思議である。
- ・ 広島市ではテニスコートの予約が難しいが、江田島市には立派なテニスコートがあるので、広島市から利用者と呼び込めば良いのではないか。

■その他

- ・ 島に住む上でデメリットになる事項をカバーできるメリットを作り、人口流出をつなぎとめる必要がある。
- ・ 航路の公設民営事業化については、今後、よく研究する必要がある。すぐには実現しないかも知れないが、どこにハードルがあるのかを知る上でも、早急に研究が必要である。
- ・ 長崎県では、船のドック費用を県が補助するなどの制度が出来たと伺っている。

ヒアリング調査時における各事業者からの意見・アイデア等

■江田島市の航路のあり方について

- ・ 市営航路は、民間に委託できる部分は委託し、効率化すべき。深夜便などの民間で担うことが難しい部分を市が担うべき。
- ・ 現在6社ある運航事業者を統括する機能が必要。市が必要なサービスを民間に委託し、足りない部分は市で負担するシステムを考える必要あり（就業者側（労働者団体）の意見も聞く必要あり）。
- ・ 江田島市の全ての航路は困難でも、相互に補完できる航路であれば、利用者の利便向上と航路維持のために共通定期券・回数券が必要。
- ・ 栈橋の集約は必要と認識しているが、利用者に理解を求める必要あり。

■事業や施策のアイデアについて

<深夜便の設定>

- ・ 曜日運航で深夜便を実証運航
- ・ 広島バスセンターからフェリーに乗って江田島市へ向かう深夜便を実証運行

<情報提供>

- ・ バスと連続した時刻表の作成
- ・ 路線図や時刻表の江田島市のHPへの集約
- ・ 可能な部分のパターンダイヤ化

<共通定期券・回数券、ICカード、割引施策等>

- ・ 共通定期券・回数券の設定（将来的にはプリペイドカードやICカードの導入）
- ・ 定期券と回数券の中間的なサービスの設定
- ・ 購入者の家族までが利用できる家族定期券の設定
- ・ 高齢者や子供がいる家族に向けた運賃割引など、各航路にて市民向けの共通の割引サービスの実施
- ・ 市内居住者への優待運賃の設定

<施設整備>

- ・ 各港のサイン等の統一（行き先や所要時間などの航路情報の明確化）
- ・ 栈橋等の整備、検札徹底のための出入口の集約化

<環境保護>

- ・ 公共交通利用促進キャンペーン等を実施し、環境問題の提起

<交流人口拡大>

- ・ 航路やバス路線と市内の観光施設が連携した旅行商品の企画（術科学校、能美海上ロτζ、みかん農園、海水浴場、キャンプ場など）
- ・ NHKドラマ「坂の上の雲」とタイアップしたPRや平和学習を題材とした利用促進
- ・ 江田島市の自然を活用した「ネイチャーツーリズム」の発掘（山登り、サイクリング、ウォーキング、農業体験、漁業体験など）
- ・ 広島市や呉市の主要施設を循環する、江田島市発のツアーバスの実証運行
- ・ 大学と連携し江田島の3F（フルーツ、フラワー、フィッシュ）を活かした地域活性化
- ・ 宮島や呉との観光ネットワークの構築
- ・ 広島市とのタイアップ（マツダスタジアムへのナイトツアーなど）
- ・ 船の乗船券とタクシーをセットにした商品の開発

■その他

- ・ 中長期的な問題は、公共交通協議会で検討することで良いが、短期的な問題を検討・解決するために事業者と市間に連絡会のようなものが必要。